

ピーター・パンがやってきた

人文学部 石堂 哲也



1 904年12月27日、ロンドンで『ピーター・パン』が初めて上演されてから100年あまり経ちました。この間、すべての子供たちと、子供のころに忘れ物をしてきた一部の大人たちに愛されてきたこの永遠に成長しない少年が、世界中を飛び回った挙げ句に弘前大学附属図書館にやってきました。

生みの親である劇作家・小説家のバーリ（James Matthew Barrie: 1860～1937）の研究者として名高い鈴木重敏氏が長年蒐集されてきた蔵書を寄贈してくださったのです。

どこの国にもその文化を代表する児童文学の名作がひとつやふたつはあります。デンマークのアンデルセンの童話、イタリアのピノキオ、フィンランドのムーミンなど。ところが、イギリスとアメリカにはちょっと思い浮かべてみるだけでも嬉しくなるくらい傑作がめじろ押しです。オズの魔法使い、不思議の国のアリス、トールキンの指輪物語、熊のプーさん、そしてハリー・ポッター。海を渡ると、若草物語、ハックとトム・ソーヤー、大草原のローラ、等々。フランスのババールなど本国でよりもむしろアメリカの子供たちに人気があるのではないのでしょうか。

世界には、大人になりきらない人が多い文化と、少ない文化があるのかもしれませんが。

たとえば、いま手もとにある『ピーター・パン』（小説版, Peter Pan, Puffin Books, 2002）を開いてみます。両親の留守中にダーリング家に紛れ込んだピーター・パンはこどもたちに空を飛ぶ方法を教えようとします。勿論、うまくいきません。やってみるたびに、ベッドから床におちてしまいます。どうすればうまくいくの、と聞かれたピーター・パンはこう答えます。

「なにかちょっとすばらしいことをおもいうかべてみてごらん」・・・「そうするとうかびあがるよ。」

この一節を読むと、（いい年をして）しばらく本を閉じて「なにかちょっとすばらしいこと」を考えてみたくありませんか。

作者バーリはスコットランドの生まれ。文人として名をなし爵位を授与され、エディンバラ大学の学長も勤めました。周知のとおり、スコットランドはアイルランドとならんで

先住民のケルトの文化が色濃く残っているところ。妖精や魔法使いの活躍する民話の宝庫です。そこで生まれたピーター・パンはみちのくの美しい風土をきっと気に入ってくれるとおもいます。



PETER AND WENDY

By **J.M. BARRIE**

Illustrated by **F.D. Bedford**

Made and Printed in Great Britain

Hasell, Watson & Viney, Ltd.,

London and Aylesbury

ピーター・パンには忘れられない後日談があるので、さきほどの Puffin Books 版の冒頭にある記述を紹介しておきます。

1929年、バーリは『ピーター・パン』にかかわる全ての権利をある小児科病院に寄贈しました。著者が亡くなってから50年経った1987年に、イギリスの法律によって著作権が期限切れとなり、この病院の権利は失効します。ところが、その翌年、イギリス議会はすべてのピーター・パンにかかわる印税収入の権利を回復する特別措置をとりました。これによって、この病院が存在する限り、この病院で病魔と闘っている子供たちはピーター・パンからの援助を受けることができるようになりました。

こういう粋なことをする人たちのことを英語では”the young at heart” と言うようです。

(いしどう てつや)

特集：ピーター・パン

Barrie Collection 寄贈とその経緯について

平成17年4月、弘前大学附属図書館に『ピーター・パン』の原作者で有名なジェームズ・M・バリー(1860-1937年)の著書および関連資料183点が日本でのバリー作品翻訳における第一人者 鈴木重敏氏 より寄贈されました。

長年、鈴木重敏氏のお手伝いをしておられる弘前大学文理学部卒の嘉瀬智子氏が、弘前大学東京同窓会において遠藤正彦学長とのお話の中で、鈴木重敏氏が高齢になってきたので、ジェームズ・M・バリーの蔵書をどこか一括所蔵し、活用して貰えるところに寄贈したいとの意向を伝えたのがきっかけで寄贈されることになりました。



平成17年4月8日、雨森道紘附属図書館長、英米文学研究者石堂人文学部教授、三上豊資料管理グループ係長の3人で鈴木重敏氏のご自宅に伺い、寄贈して戴くジェームズ・M・バリー コレクション183点の現物確認を行いました。一部修理が必要な書籍もありましたが、ほぼそのまま利用可能な状態で所蔵されていました。

寄贈されたコレクションについては、一部修理製本を行い、整理作業中ですが、この号が刊行される頃には、皆さんに公開できるものと思います。

(図書情報担当 三上豊)

Barrie Collection 寄贈への感謝状贈呈と藤崎農場での一日



ジェームズ・M・バリーのコレクション183冊の寄贈者、鈴木重敏氏とその仲介をされた嘉瀬智子氏(弘前大学文理学部文学科卒)両氏の功績に対し平成17年5月16日弘前大学長(学長出張中のため中澤副学長代行)より感謝状及び記念品が贈呈されました。



その後、図書館において弘前大学の英米文学関係者および図書館関係者を対象にジェームス M. バリーおよびバリーコレクションについて、鈴木重敏氏の講演が行われました。



講演の後に、参加者との懇談会が終始和やかな雰囲気の中で行われ、参加者全員がこれから弘前大学でバリーのコレクションが息づいていくことを願って会を閉じました。



また、前日の5月14日、15日には、弘前大学農学生命科学部藤崎農場で開催の「リンゴとチューリップのフェスティバル」において、ピーター・パン関連図書を中心にコレクションの一部と鈴木重敏氏からお借りした「バリー直筆の手紙」「ピーター・パンのカラー絵本（英文）」などを展示し、一般市民に一足先に公開されました。



この藤崎農場チューリップ園は、この度の寄贈にちなんで『ピーターパン・チューリップ園』と名付けられました。

5月15日には、感謝状授与式に出席のため来弘された鈴木氏ご夫妻と嘉瀬氏が、遠藤学長および雨森館長と共にコレクション展示の見学と、ピーターパン・チューリップ園の散策を楽しまれました。

